

放射性廃棄物の搬入再開やめよ 千葉県我孫子・印西保管施設

千葉県が地元自治体や議会、住民の意向を無視し、高濃度放射性廃棄物の「一時保管施設」を一方向的に指定して大きな問題になっています。(青野圭)

緊張が高まっているのは千葉県の我孫子、印西両市にまたがる県営手賀沼終末処理場。昨年9月、千葉県は同処理場内に指定廃棄物の「一時保管施設」(長さ30^{メートル}、高さ5メートルの鉄骨製シート張りテント)を地元の反対を押し切って設置。さらに同12月21日、柏、松戸両市が放射性焼却灰の搬入を強行しました。

同日は住民ら60人が抗議に集まりました。以後話し合いを求める住民の監視行動は、猛暑が続く現在も連日、午前9時から処理場前で続いています。

放射性廃棄物の搬入について我孫子市では、市も議会も住民も構想段階から一貫して白紙撤回を求めてきました。県が同処理場を「一時保管場所」に決めたと発表(昨年6月18日)すると、市長は直ちに「あまりに唐突かつ乱暴で全く容認できるものではない」と抗議。住民らは広域近隣住民連合を結成し、短期間に反対署名1万6320人分を集めました。我孫子市議会も全会一致で反対決議を3回可決しました。

地元合意なく

日本共産党県議団は、搬入が強行されると直ちに

一時保管の期限迫る

反対世論の広がりのなか、焼却灰を搬入していた柏、松戸、流山の近隣3市は2月以降相次いで搬入を停止しました。しかし松戸市が7月26日、搬入再開を表明して再び緊張が高まっています。

千葉県と近隣3市は搬入開始に先立ち、「ごみ焼却灰」の一時保管期間を2015年3月までとする協定を結びました。期限までに最終処分場ができなければ、焼却灰は搬入した自治体が持ち帰ることになっています。しかし、最終処分場の目途はまったく立っていないのが現状です。

「協定を守るのはもちろんですが、このまま持ち込ませたら、(持ち帰る)先延ばしになるだろう」と懸念を語るのは、住民連合会の代表を務める榎本菊次さん(72)。自宅から同処理場まで約700^{メートル}、2階から見える近さです。同地で12代、200年続く家柄。「は

森田健作知事に「地元の理解と合意が得られないままの強行搬入は中止するよう」強く申し入れる一方、現地に加藤英雄県議と岩井康・我孫子市議が湧け付けました。党県市議団は、同問題を議会で再三、取り上げて知事の姿勢を厳しく追及してきました。

岩井市議は、同処理場を一時保管場所とした無謀さを次のように指摘します。

①同市の地震ハザードマップで、建物全壊率が最高ランクの「30%以上」に当たるのは市内全域で同処理場だけ②液状化危険度の最高ランク「極めて大きい」にも該当③市洪水ハザードマップで、利根川が氾濫した場合、同所は5^{メートル}以上の浸水。「災害に見舞われたら、焼却灰の流出は避けられません。放射性廃棄物の保存など、絶対にあってはならない場所なのです。

指定廃棄物 福島第1原発事故で放出された放射性物質を含むゴミの焼却灰で、放射性セシウム濃度が1^{キロ}当たり8000ベクレルを超える廃棄物

じめは関心なかったが、だれかがやるしかないと思った」と代表を引き受けました。

同会の小林博三津事務局長は(62)は、保管のずさんさに不安を隠しません。「柏市では、370^{トン}の廃棄物をドラム缶に入れたうえで、厚さ30^{センチ}のコンクリート製の箱(ボックスカルバート)で保管しているのに、ここではテントです。風が吹けば飛んでしまう」。さらに「処理場は隣接する川より低いので、堤防が切れたら水没してしまう。大根やカボチャを置くのとは訳が違います」。

住民らは搬入停止を求めて昨年12月、総務省の公害等調整委員会に調停を申請。①放射性物質を外部に漏出させない施設②上記施設の完成と最終処分場を確保するまで搬入しない③2015年3月末で撤去、の3点を求めています。